

審判インストラクター研修会を開催

3月5日、12日に松島フットボールセンターを会場に、審判インストラクター研修会を開催しました。

今回の研修会では「チュータリング」「プラクティカルトレーニング」の2つのテーマについてJFAより講師として石山昇(S級インストラクター/JFA審判委員会副委員長)を講師としてお迎えし研修会を行いました。

昨年度より重点的に取り組んでいる審判指導者研修会ですが、今後も審判員が自信を持って試合に望めるように、指導者が最大限サポート出来るよう、継続して研修会を開催していきたいと思っております。



加藤 勝 審判委員長 コメント

2週にわたって研修会が開催され、多くの審判員・指導者の参加のもと有意義な研修会になりました。今回の研修会にも、お忙しい中スケジュール調整していただき、昨秋のレフェリーキャラバンから継続的に指導をしていただいている、JFAの石山インストラクターにお越しいただき研修会を開催することができました。これまでとは違った研修会内容に参加者のモチベーションは上がり、特に指導者は格段にスキルアップしていると感じています。今後は今夏のインターハイに向けた準備を本格的に進めていくことを最優先として、審判員向けに毎月研修会を開催していきたいと思っております。最後に、毎回充実した研修会にいただいている石山インストラクターに感謝申し上げます。

大平俊明 2級インストラクターコメント

今回の審判指導者研修会は、昨年11、12月に開催されたレフェリーキャラバンおよびフォローアップ研修会の振り返り研修会としての位置づけの基に実施され、レフェリーキャラバンから石山S級インストラクターに継続指導していただいている”チュータリング(詰め込み授業⇒個人指導教師)”：分かっていないところを見極め、そこを集中的に補完・強化する手法とチュータリングを導入する際、審判員が答えやすい明確な質問をする事を基本スタイルとし、『質問にあいまいさがなく、答える際の焦点が明確』…トピックスを絞り込む事の重要性を再確認することができました。”プラクティカルトレーニングの指導”においては、プラクティカルTRは審判員自らが気づき、理解し、改善方法を試す機会であること、『聞くだけでは忘れる、見れば覚えられる、行ったことは理解する』を審判指導者が認識し、トレーニング目的の明確化、指導者としての自信と情熱を前面に出すことの重要性と審判員のために実施することを再認識する機会となりました。改めて石山S級インストラクターに感謝するとともに、今回の経験を今後の審判員への指導に生かしていきたいと思っております。

金澤和夫 2級インストラクターコメント

チュータリングについては、キャラバンに引き続いて実施したが審判員を引きつける手法並びに一方的に話をすることはなく、グループ討議をして発表させてそれについて、問いかけを行い審判員が納得のいく説明等をする事の難しさを痛感した。それまでは審判員がわかっているかと思っていてチュータリングを行うことによって審判員がしっかりと理解できていないことがわかり、チュータリングが大切であること継続して実施していくことの重要性を知った。プラクティカルトレーニングにおいては、指導する人の立つ位置について改めて自分が良い場所と決めて指導していたが、立ち位置を5メートルくらい指導されて移動しただけで、レフェリーの動き及び選手の動きが視線を大きく変えることなく見て指導でき、立ち位置の重要性を認識した。今回、学んだことを自分のものだけにしておくのではなくインストラクター各位に普及をすることにより、審判員の更なる向上につながっていくように努力していきたいと思っております。